

A B r i e f N o t e N o . 2 1 7

発行日：2013年1月8日

「秋に集う～陶芸・水引・染織展～」

八千代市 松尾 昌泰

(1) 二組の夫婦のコラボレーション

私たち夫婦と陶芸の先生夫婦の4人で、「秋に集う～陶芸・水引・染織展～」を2012年11月に八千代市文化センターで開き、私たちは、陶芸と水引の作品を出品しました。

今迄は、数年に一回程度、陶芸の先生と門下生で陶芸作品展を行っていましたが、今回は趣を変えて、陶芸、水引、染織とそれぞれ異なった分野の作品のコラボレーションでした。

(2) 私の陶芸

退職する10数年前から陶芸をはじめ、退職後も15年間になるので、約30年間ほど飽きもせず趣味として続けてきました。

現役のころ、何か趣味を持ちたいと思っていたところ、丁度八千代市の公民館で「陶芸教室」が開かれ、この教室に参加したのが始まりでした。粘土をこねて、形のあるものを作り出す過程では、全く無心になり、上手く作り上げられなくても、楽しく続けました。



ランプ（上部は竹で編んだ「六目編み」、下部は透かしを入れた陶器、光の影が周囲に出ています）

退職後は自宅で作陶することが多くなり、「電動ろくろ」を使つての作品を作りたくなり、

ついに自宅に「電動ろくろ」を設置しました。公民館のサークル活動では、焼成の制限などがあり、もう少し、大きいものや、より良いものを作りたく、サークル活動の先生の工房に通い始めました。

作成した花器に、妻が千葉県や八千代市華道連盟の華展で生花を届けはじめたことで、生花の仲間たちの中で話題になることも少なからずありました。



露芝紋の花器、高さは約25cm、口径13.5cm

この頃から、市販されていないような花器、かなり大きな花器、そして形が変わった花器、色合いが変わった花器などを作ることが多くなりました。今回の作品展でもそのような作品を多く出しました。



六角形をした独特の花器（径は20cm、高さは27cm）

(3) 妻の伝統水引工芸

子ども達がまだ小さい頃、長野県の飯田に家族四人で旅行をした時に、日本伝統水引工芸の「せきじま美術館」で、素晴らしい水引工芸品を見ました。

水引といえば、熨斗袋に掛けられている水引しか知らなかったのですが、大きな立体作品を見た時は、本当に驚きでした。

この時に、妻は息子たちの結納の時には、自分で作った結納セットを持たせたいと思ったのが、水引工芸を始めるきっかけだったと言っています。



結納の品一式、長男と次男用にお内容なセットを作りました

作品展に出した作品の中で、最も大きなものは、高さが約1メートル程ある、高山の山車「三番瘦 (サンバンソウ)」で、作成にはほぼ1年かかりだったそうです。最も小さい出品作品は「根付け」でした。



高山の山車「三番瘦」上部には人形が見えます (高さは約1m)

(4) 作品展を終わって

このような作品展は、二度と行うこともないと思ったので、押し入れの段ボール箱に眠っていた作品も総動員しました。

作品展の開かれる前には、「八千代ナビ」というインターネットのサイトで紹介されたり、朝日新聞系列のフリーペーパー「定年時代」(千葉全域版) 11月号では、トップ記事として人物写真付きで取り上げられたりで、少し恥ずかしい思いをしました。

しかし、その記事のお蔭で、成田、市川、松戸、千葉、船橋、東京など、遠くから観に来て頂きました。近所の人たちも多く足を運んでいただき、本当にありがたく思っています。

たいへん良い記念になりました。

大きな作品には体力も根気も必要であり、この作品展を潮時に、今後は小さい作品造りに切りかえ、のんびりと、もっと気楽に作陶して行こうと思っています。

以上